

マテリアリティ (重要課題)

私たちは「限りない創造 社会への奉仕」を社是とし、当社の成長を通じて持続可能な社会の実現に貢献し、「社会的価値」と「経済的価値」の両立を目指しています。2030事業計画で掲げている「目指す姿」と「提供価値」の実現に向けて、変化する事業環境を考慮し、社会予測やSDGsなどの様々な社会課題の中から、当社として特に貢献できる重要な分野を「マテリアリティ」として選定し、取り組んでいます。

社会課題／メガトレンド		
事業活動	 <ul style="list-style-type: none"> ● 自動車の技術革新(BEV・CASE)と安心・安全なモビリティ社会の両立 ● デジタル・IT化の加速による企業競争力の変化 	CASE (BEV/FCEV) 市場拡大 MaaS市場拡大 市場変化 デジタル化・IoT・DX加速
	 <ul style="list-style-type: none"> ● 環境問題の深刻化 ● 気候変動と資源不足によるビジネスの転換 	環境・資源
	 <ul style="list-style-type: none"> ● 人口構造の変化 (少子・高齢化) ● 価値観の変化／働き方の多様化 	人的資本
	 <ul style="list-style-type: none"> ● BCPリスク ● 地政学リスクの高まり 	サプライチェーン ガバナンス
経営基盤		

機会とリスク

BEVの伸展による新製品の市場投入	リスク	機会
BEV先行市場、BEV先行OEMへの対応	リスク	機会
FCEV市場の伸展		機会
交通事故未然防止技術の進化		機会
燃料系部品の減少	リスク	
利用者のクルマに対する価値観・関わり方の変化	リスク	機会
新興国のインフラ強化・法規制による市場変化		機会
生産の効率化(自動化・少人化)		機会
グリーンテクノロジー※による新分野の市場拡大	リスク	機会
カーボンプライシングの導入による競争力の変化	リスク	機会
ゴム・樹脂材料の使いこなし、材料開発(軽量化、材料置換、耐久性向上、新規材料)	リスク	機会
異常気象による大規模災害	リスク	機会
省エネ活動の促進によるエネルギーコスト低減		機会
D&Iによる思考・技術・経験の多様化		機会
人材ポートフォリオによる効率的な人的資本の活用(リスクリング含む)		機会
グローバルでの労務費高騰	リスク	
地政学リスクや感染症・災害による生産影響、サプライチェーン分断、人的被害	リスク	機会
原材料費高騰、材料不足	リスク	
重要品質問題・リコールの発生	リスク	
サイバー攻撃・詐欺メール	リスク	
機密情報漏洩	リスク	
独占禁止法違反(談合・カルテル)	リスク	

※グリーンテクノロジー：環境問題を解決、あるいは緩和するための技術・製品(例：軽量化や脱炭素に資する技術・製品など)

マテリアリティ (重要課題)

マテリアリティ特定のプロセス

1 | マテリアリティ候補の抽出

社会課題、市場・社会動向、GRI スタンダードなどを参考に、サステナビリティ推進メンバーにて検討すべき課題を抽出

2 | マテリアリティ候補の評価・分析

当社の重要度、ステークホルダーの重要度に基づき分析・評価

3 | 経営陣による妥当性評価



特定プロセスを含む抽出した重要課題に対して、社外取締役などへの意見聴取を行い、マテリアリティの妥当性を評価

4 | マテリアリティの特定

経営会議体での審議を経て重点取り組みテーマを選定

5 | レビュー

会社方針と紐付けた取り組みのレビュー、サステナビリティ会議における確認・定期的なマテリアリティの見直しを実施

	サステナビリティ重要課題 (マテリアリティ)	主な取り組み (社会課題/機会やリスクへの対応)
	<ul style="list-style-type: none"> ● クルマの様変わりへの対応 ● 交通死亡事故の低減による安心・安全・快適なモビリティ社会の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ● BEV化に向けた新製品の開発 P.26 ● BEV先行市場・OEMへの拡販 P.25 ● 全ての人に安心・安全・快適を届けるためのエアバッグ製品の開発・拡販 P.27 P.48
	<ul style="list-style-type: none"> ● CO₂排出量削減・温室効果ガス排出量削減による脱炭素社会の構築 ● 廃棄物低減・水リスク低減による循環型社会の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新規事業開発の経験を活かした新規ビジネス拡大 P.34 ● コーポレートベンチャーキャピタルの活用 P.37 ● スマート工場の具現化(生産性倍増) P.38 ● ゴム・樹脂分野の知見を活かした環境配慮型ビジネスの構築 P.29 P.33 ● カーボンニュートラルの実現に向けたグローバル一体活動 P.54 ● 循環型社会への貢献(Car to Car リサイクル) P.58
	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域社会との共生 ● 多様な人材の活用推進・人権尊重 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域社会に根差した取り組み (地域自立的経営、センターオブエクセレンス) P.42 ● ダイバーシティ&インクルージョン P.62 ● 安全・健康経営 P.68 ● サステナビリティ経営を支える品質とサプライチェーンの強化 P.65 ● 地政学および経済的リスクへの対応 P.82
	<ul style="list-style-type: none"> ● 誠実な会社としてのコーポレートガバナンス ● コンプライアンスの徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ● BCPのレジリエンス強化 P.84 ● 内部統制の強化 P.70

KPI・中長期目標 (2030年度)	関連するSDGs 最重要分野
<ul style="list-style-type: none"> ● BEV関連売上収益比率: 40% <p>目標設定の計算式 BEV生産台数/自動車生産台数 ※S&Pグローバル情報に基づく</p> <ul style="list-style-type: none"> ● エアバッグの生産個数 : +1.5倍 (2022年比) 	 <p>安心・安全・快適な モビリティ社会の実現</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● キャッシュ・アロケーションに基づく (安心・安全、快適、脱炭素の貢献領域の拡大を目指した研究開発費や 人的投資、戦略投資を中心に資金配分) <ul style="list-style-type: none"> ● スコープ1,2:カーボンニュートラル ● スコープ3:△27.5%(2019年比) ● 再エネ導入率:100% ● 廃棄物量(総量)【単体】:△50%(2012年比) ● 廃棄物量(原単位)【海外】:△55%(2015年比) 	 <p>イノベーション創出による 社会課題解決</p>    <p>脱炭素・循環型 社会の実現</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 人権に関する研修実施率:100% ● 海外拠点のローカル幹部職比率(副社長以上):60%以上 ● 女性管理職数(比率)【単体】:100人(8.8%) ● 中途採用者の管理職比率【単体】:30%以上 ● 仕入先のサステナビリティ活動実施率:100% ● 従業員エンゲージメント肯定率【単体】:75% ● 重大災害発生件数:0件 	  <p>多様な人材の活躍による 持続的成長</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● 重大法令違反件数:0件 ● サイバーセキュリティ重大インシデント:0件 	 <p>公平で透明性のある 企業統治体制</p>